



2024年1月7日(日)～3月21日(木)

【花鳥風月—古伊万里の文様—】日本のやきもの史の中で、初の国産磁器として誕生した伊万里焼は、器面に筆で文様を描くことを施文方法の主流としました。江戸時代を通じて佐賀有田を中心とした地域で作られ、需要者の流行を反映しながら、様々な文様をあらわしていきました。その表現は一筆ごと丁寧描かれているものから、略筆で判別が難しいものまで多岐にわたります。ひとつひとつのモチーフを紐解いていくと、中国文化の受容に加え、国内で脈々と培われてきた日本文化の独自性を垣間見ることができます。今展では古伊万里の文様から花・鳥・風景・月に注目。2つの展示室をそれぞれ「花鳥の間」、「風月の間」として、四季折々の花鳥文、風情溢れる山水文のうつわをご紹介します。約80点の趣深い古伊万里をご堪能ください。

【同時開催 千支セレクション 龍】2024年は辰年。今展では戸栗美術館収蔵の龍文様の作品約30点を出展。中国・景德鎮官窯による皇帝専用の五爪二角の龍から古伊万里の螭龍まで、龍文様の豊かなヴァリエーションをお楽しみください。

『花鳥風月 ー古伊万里の文様ー』（第1～2展示室）

見どころ その 1 約 80 点の古伊万里を文様モチーフごとに展示

花鳥風月とは、自然の美しい風物、あるいは風雅な趣を楽しむ風流な行いを意味します。日本初の国産磁器として江戸時代に誕生した伊万里焼では、誕生間もない17世紀はじめの頃から、花鳥あるいは山水といった自然の風物を文様装飾のモチーフに採用してきました。今展では古伊万里の文様から花・鳥・風景・月に注目し、こういったモチーフが選択され、描かれてきたのかを館蔵品約80点から紐解いていきます。

主な出展作品



見込に夫婦和合の象徴である鴛鴦と吉祥の松竹梅をあらわした皿。
伊万里焼には吉祥意を見出せる花鳥のモチーフが見られる。

①色絵 鴛鴦文 捻花皿

伊万里（古九谷様式）
江戸時代（17世紀中期）
口径 29.0cm

梅と椿を2面ずつ描いた角瓶。
うち1面には梅の木に留まる鳥
をあらわす。

④染付 花鳥文 角瓶

伊万里
江戸時代（17世紀後半）
高 25.4cm



山桜に椿、赤い実をつけた万年青のある庭園景をあらわした鉢。
冬から春にかけての季節のうつろいを感じさせる。

⑤色絵 花卉文 鉢

伊万里
江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 22.6cm

見どころ その 2

初出展作品「染付 双鷺文 皿」

伊万里焼の文様の中でも鷺は初期から幕末まで繰り返し登場するモチーフです。「染付 双鷺文 皿」は初期作品の中でも丁寧な作りの優品。今展では本作を初出展いたします。月下に双鷺が仄々と浮かび上がる抒情的な文様をお楽しみください。

初出展

③染付 双鷺文 皿

伊万里
江戸時代（17世紀前期）
口径 21.0cm



見どころ その 3

古伊万里にみる山水文の世界

当館では山のある風景が描かれているものについて、「山水文」と呼んでいます。モチーフとしては絵画作品の印象が強い山水ですが、伊万里焼の場合は基本は曲面にもあらわされ、立体ならではの構図が見どころです。今展では山水文の描かれた伊万里焼の魅力を、第2展示室を一部屋丸ごと使ってご紹介いたします。



そめつけ さんすいもん みずさし
②染付 山水文 水指

伊万里
江戸時代（17世紀前期）
高 15.7cm

月の浮かぶ山水景を描いた水指。胴部のくびれから上部を遠景として山や月を、下部裏面を近景として水辺に浮かぶ帆船を描く。器形を生かした構図で遠近感をあらわしている。

展覧会紹介文

■ 24words

花鳥文や山水文の描かれた古伊万里約 80 点を展示。

■ 99words

古伊万里にあらわされるモチーフは多岐に渡ります。今展では花・鳥・風景・月に注目。館蔵品から、四季折々の花鳥文や風情溢れる山水文のうつわをご紹介します。約 80 点の趣深い古伊万里をご堪能ください。

同時開催『干支セレクション 龍』（第3展示室）

一部屋丸ごと龍尽くし！戸栗美術館収蔵の優品から龍文様の作品を特集

2024 年は辰年。龍は^{りんちゆう}鱗蟲の長であり、四霊に数えられる靈獣。雲を起こして雨を呼ぶとされ、威厳のある形姿も相俟って吉祥とされています。

今展では戸栗美術館収蔵品のなかから龍文様の作品約 30 点を出展。中国・景德鎮^{けいとくちん}官窯による皇帝専用の五爪二角の龍をはじめ、古伊万里にみられる蛇のような容姿の螭龍^{ちりゅう}や角を持たない蛟龍^{こうりゅう}、天翔る龍や団龍など、龍文様の豊かなヴァリエーションをお楽しみください。



いろ え あかだまうんりゅうもん はち
⑥色絵 赤玉雲龍文 鉢

伊万里
江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 25.8cm

※画像①～⑥および展覧会ポスターの写真データ等をご用意しております。ご入用の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。また、ご取材も随時承っております。お気軽にお問合せくださいませ。

展覧会情報

- 名称 : 花鳥風月—古伊万里の文様—
会期 : 2024 年 1 月 7 日 (日) ～ 3 月 21 日 (木)
会場 : 戸栗美術館
所在地 : 東京都渋谷区松濤 1-11-3
開館時間 : 10:00 ～ 17:00 (入館受付は 16:30 まで)
※金曜・土曜は 10:00 ～ 20:00 (入館受付は 19:30 まで)
休館日 : 月曜・火曜
※ 1 月 8 日 (月・祝)、2 月 12 日 (月・振休) は開館。
入館料 : 一般 1,200 円 / 高大生 500 円
※中学生以下は入館料無料。
※ 1 月 7 日 (日) ～ 1 月 31 日 (水) まで新成人は入館料無料。
交通 : 渋谷駅ハチ公口より徒歩 15 分・地下鉄 A2 出口より徒歩 12 分
京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10 分
※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。
同時開催 : 『干支セレクション 龍』(第 3 展示室)
『戸栗美術館の展示と作品保存』(やきもの展示室)
文化財を守り伝えることは、美術館の大事な役割です。しかし、作品の展示公開は保存の観点からするとリスクを伴う行為といえます。ここでは、東洋陶磁専門館である戸栗美術館が行っている、作品を守りながら展示するための工夫をご紹介します。
『江戸時代の伊万里焼—誕生からの変遷—』(特別展示室)

会期中の催し物

展示解説

『花鳥風月—古伊万里の文様—』の見どころ

2 階展示室にて、主な出展作品の見どころをご紹介します。

- 1 月 20 日 (土)・2 月 24 日 (土) 各日 14:00 ～ (約 45 分)
- 参加費無料 (要入館券)
- 予約不要

ラウンジ & ギャラリートーク
「古伊万里の文様—中国文化受容のその先へ—」

前半は 1 階ラウンジにて江戸時代に人々に受容された中国文化が古伊万里の文様に与えた影響についてお話しし、後半は 2 階展示室にて展示解説を行います。

- 3 月 11 日 (月) 14:00 ～ (約 120 分)
※当日はご予約の方のみご入館いただけます。
※ 13:30 開館、17:00 閉館です。
- 先着 30 名様
- 参加費 一般 1,500 円 (税込) (入館券を別途お求めください)
年間パスポート会員 1,200 円 (税込)
- 要事前予約

次回展予告

鍋島と金襴手—繰り返しの美—展

2024 年 4 月 17 日 (水) ～ 6 月 30 日 (日)

鍋島焼や金襴手様式の伊万里焼に見られる幾何学文などの反復文様や図様の踏み返しに注目。約 80 点を展示。



色絵 更紗文 皿
鍋島
江戸時代 (17 世紀後半)
口径 15.9cm



色絵 龍鳳文 鉢
伊万里
江戸時代 (17 世紀末～18 世紀初)
口径 23.0cm

お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当 宛
〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3
TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813 E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp
公式サイト : <http://www.toguri-museum.or.jp/>